

Web 資料 1

便秘用薬剤 モビコール用、Web 資料

Web 資料表： ポリエチレングリコール (PEG) 製剤の効力のまとめ
(海外総合評価文献より)

文献	著者 報告年	対象	PEG	比較対照	報告 数	対象 者数	排便増加 回数/週	95%信頼区間		p値 (有意差)	I ₂ (%)
								下限	上限		
5	Gordonら 2013	小児 (2-18)	対プラセボ *a		2	101	2.61	1.15	4.08	0.0005	58
			対ラクツロース *b		4	328	1.09	0.02	2.17	0.047	70
			対水酸化マグネシウム		3	211	0.69	0.48	0.89	<0.00001	0.0
6	Katelarisら 2016 (ネットワーク -メタ解析)	成人 *c	PEG+E(電解質)	PEG単独	3	328	0.1	-1.1	1.2	なし	データ なし
			単独	対 プラセボ	10	922	1.8	1.0	2.8	あり	
			PEG+E	対 ラクツロース	6	422	1.9	0.9	3.0	あり	
			単独	対 ラクツロース	1	65	1.8	0.0	3.5	あり	
			PEG+E	対 ラクツロース	2	229	1.9	0.2	3.6	あり	
			単独	対 便増量剤	0		2.6	-0.8	5.8	なし	
			PEG+E	対 便増量剤	1	126	2.6	-0.5	5.8	なし	
			単独	対セロトニン 作動剤*d	1	234	1.3	-1.0	3.5	なし	
7	Belseyら 2010	成人	対プラセボ		15	1251	1.98	1.16	2.81	0.0003	82.1
			対ラクツロース		8	729	2.34	1.76	2.91	0.0001	14.9
			対ラクツロース		7	959	1.01	0.41	1.62	0.017	53.5
			対ラクツロース		4	587	1.65	0.93	2.38	0.021	0
			対車前子(オオバコ)		2	>126	適切な排便では、2試験で優劣分かれる。				

*a：重篤有害事象は差なし。

*b：有害事象も PEG 群で低い傾向あり (OR:0.37, p=0.057)

*c：すべて電解質(E)を含む PEG 製剤と対照群との比較をネットワークメタ解析の手法で解析。

*d：セロトニン作動剤の tegaserod は、米国で 2002 年に承認されたが、心筋梗塞や脳卒中がプラセボに比較して約 8 倍発症したため、2007 年に使用中止措置が取られた。